

優秀賞

小さな親切の積み重ね

静岡県 井伊谷小学校 六年

山本 苺

「どんな人にもやさしく接しなさい。」

小さいころから、お母さんに言われてきました。

私は、だれに対してもやさしくしたり、他人を優先したり、困っている人を助けたりしてきたつもりです。忘れ物をしてしまう子のために、えんぴつや消しゴムの予備を持っていったり、小さい子が困っていたら、「どうしたの」と声をかけるようにしてきました。

この前、学校でいっしょに遊んでいた一年生の子の歯が抜けました。そのときに、その子が困っていたのでティッシュをわたし、歯を包んで持って帰れるように袋をわたしました。

その夜、その子のお母さんから、私のお母さんに連絡がきて、「ありがとう」と伝えてもらいました。学校では、キラキラカードに「やさしい」と書いてもらったりしました。そのことをお母さんに話すと、

「人にやさしくすると自分に返ってくるんだよ。」

と言っていました。

「だけど、見返りを求めてやさしくするものじゃないよ。」

とも言っていました。それは私もわかっています。

この前、こんなことがありました。私が習い事に行っているとき、いつもは終わる時間より早く迎えに来ているお母さんが、その日は終わってもなかなか迎えに来ませんでした。どうしたんだろう、と思っていた時お母さんが来ました。何をしていたか聞くと、

「横断歩道の真ん中で、車いすのおじいさんが、車いすがこわれて動けなくなってしまっていたから、周りにいた人たちと、車から出て助けていたんだよ。」

と教えてくれました。おじいさんは、ありがとうと感謝していたよと、教えてくれました。それを聞いたとき、そんなお母さんが、ほこらしく思いました。

そして、知らない人なのに車から出てきて、助けようとする周りの人もすごいなと思いました。私はいい町に住んでいるなと思いました。お母さんは、一人でおじいさんを動かそうとしても、重くてできなかったけれど、すぐにたくさんの方が集まってくれたと言っていました。

小さなやさしさがたくさん集まると、目に見える大きな力に変わるんだなと感じました。そして、小さなやさしさは大きな信らいへもつながっていくんじゃないかと思います。

私はこれからも、だれにでもやさしくありたいです。それは、人間だけじゃなく、犬やねこなどの動物や、こん虫、草花にも同じ気持ちでいたいです。